

(1) 下焦の急性症状

下焦の急性症状の特徴は、下焦に元から歪みや瘀血があり、その歪みや瘀血が動いて、そこから邪気が噴き出し、下焦で激しい症状が出ていること。表位、上焦、中焦にも症状が出るが、下焦の症状が激しい。そのため、下焦の横輪切り部分、特に背中側と、それに関連する足の陰陽経にツボが出る。

症状の主な原因は、毒性が増大した瘀血とそこから発生する邪気なので、上衝する邪気を体の外に出すこと、下焦で暴れている邪気の出やすい道筋を作ることが大切。邪気が無くなれば瘀血の毒性は弱まり、排出されやすくなる。

下焦には瘀血が多いが、たまに食毒も。慢性期にはそれらの処置も必要だが、応急処置では、悪化する恐れもあり、しないのが基本。

(2) 基本処置

下焦から頭にかけての邪気を体の外に引き出し、上衝を鎮める。邪気が主に動いている下焦から邪気が体の外に出て行きやすい道筋を作っておくことが必要。ルート上の上焦、中焦に関係する手陰経や下焦に関係する足陰陽経の末端へ引き、下焦の横輪切りの背中側に引く。手早い刺鍼が大切。

(3) 実技と手順

そのとき患者さんが取っている姿勢が基本。背を丸めた座位や横向き寝が多い。体の動きが大きければ、接触鍼か提鍼の方が無難。

〈1〉急性期の応急処置

手順の基本は、次の通り。

1. 上衝を治める：手甲に引き鍼
2. 手足に引く i. 手陰経の手首近くに引き鍼
ii. 足に陰経陽経の順で引き鍼
3. 陽に引く：下焦背中側に引き鍼
4. 上衝を治める i. 表位の散鍼
ii. 再度、手甲に引き鍼

途中で状況により必要な処置を付け加える。

1. 上衝を治める：手甲に引き鍼

先ず頭に上がった邪気を降ろすために、頭の熱い所に関係する手甲にツボを探し、手早く速刺徐抜で刺鍼し、邪気の波が来終わったときに抜きあげる。

2. 手足に引く i. 手陰経の手首近くに引き鍼

頭が熱かった側の内関の近くに引き鍼。上衝した邪気が上焦や中焦を通るので、内関に引き鍼し、手陰経への道筋を作る。手早さを加えた除刺徐抜で刺鍼し、邪気の波が来終わったときに抜く。

2. 手足に引く ii. 足に陰経陽経の順で引き鍼

基本的には、足首から先。陰経は、中封、太衝など。接触鍼でもよい。蠡溝なども使う。手早さを加えた除刺徐抜で刺鍼。陽経は、内庭、足甲3-4間など。手早く速刺徐抜で。陰経陽経とも、邪気の波が来終わったときに抜く。

3. 陽に引く：下焦背中側に引き鍼

背を丸めて耐えていることが多く、丸みを見て、最も出っ張った辺りにツボを探す。腰椎2～仙骨の督脈、華佗経が多いが、左右差が大きいときには腰徹腹にも出る。

手早く、しっかり、次の波が来ないうちに蠡く邪気を全て抜き出すように刺鍼。

4. 上衝を治める i. 表位の散鍼

表位の熱い所を探し散鍼。先ずは、肩胛骨・肩・項（うなじ）。次に、鎖骨～前頸部、そして、頭・額。置く方はユックリ、離す方を速く。

4. 上衝を治める ii. 再度、手甲に引き鍼

終わりに、また、手甲に引き鍼して後始末。

〈2〉子供の腹痛

子供の場合には、食毒が原因でなることがあり、そのときは中焦の場合も参考に施術。

〈☆〉数時間以内に復活したら

応急処置後数時間以内に痛みが同じくらい復活したら、器質性病変を疑い救急医療へ。

痛みの復活が最も痛いときの半分以下なら様子を見てもよいが、同じ位なら素早い対応が必要。

要点

- ① 下焦の悪血が動けば、下焦の急性症状が出る
- ② 手甲・内関に引き、足首から先の陰陽に引く
- ③ 腰椎2～仙骨の最も丸めている辺り